

年末の恒例行事である第31回日本内視鏡外科学会総会が福岡大学の岩崎昭憲先生の素晴らしい企画で盛会のうちに終了し、新しい年を迎えることができました。平成最後の総会は、まさに内視鏡外科の歴史に一区切りをつけ、新たな時代の内視鏡外科の方向性を示していただいた総会だったと思います。この総会では医工学連携委員長として初めて、医工学連携企画を担当させていただきました。分からないことだらけで最初は戸惑いましたが、医工学連携展示・ブースツアーでは出展していただいた企業にも大変好評価でしたし、国産ロボットのパネルディスカッションでも会場がいっぱいになるほどの聴講者にご参加いただき、本当に感無量でした。医工学連携というと、私が前々から感じているのは我々ユーザーのニーズとメーカーのニーズのマッチングができていないのはありますが、ユーザー側に機器のコンセプトやメカニズム、あるいは機器の利点やピットフォールがきちんと伝わっていないことが多いように思います。もちろん企業にしても製品説明のために色々と工夫をされているのは知っていますが、それがどの程度周知されているのか、また正しい使用がされているのか、もっと積極的にリサーチをしていただきたいように思います。米国ではSAGESでFUSE (Fundamental Use of Surgical Energy) という教育プログラムがあり、エネルギーデバイスの基本原理や正しい使用法を教えており、近年日本内視鏡外科学会でも取り上げられるようになってきました。ただ、医療機器の発展は日進月歩です。同じような機器で、基本原理は同じでもそれぞれのメーカーの特徴は大きく違う部分もあります。それらの特性を十分理解して正しく使用するのとは外科医の義務です。「外科医だから器械のことは分からない」というのでは、内視鏡外科医としては不勉強な気がします。新しい時代の医工学連携委員会としては「ものづくり」に焦点を当てるだけでなく、新しい医療機器の原理や特性、また企業主導ではなかなか難しい他社製品との違いなどに焦点を当てた教育コンテンツの充実にも取り組んでいきたいと思っています。一度に風呂敷を広げて収集がつかなくなってしまうのが困りますが、少しずつ医工学連携の内容を充実させていければいいかなと思っています。

(内藤 剛)

日本内視鏡外科学会雑誌

(第24巻 第2号) 2019年3月15日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

(1部) 定価: 本体 2,800 円 + 税

2019年 年間購読料: 16,380 円 + 税 * 学会員は学会ホームページから閲覧できます。

編集・発行: 日本内視鏡外科学会 (代表: 渡邊昌彦)

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 1-4-2 大同生命霞が関ビル 日本コンベンションサービス株式会社内

☎ 03-3503-5917 Fax 03-3508-1257 E-mail: info-jses @ convention.co.jp (担当: 池田, 小倉)

http://www.jses.or.jp

発売: (株)医学書院 (代表: 金原 俊) (本誌担当: 水野, 安部)

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23 (振替口座 00170-9-96693 番)

本誌編集室直通 ☎ 03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802 / E-mail: jses @ igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659 (Fax 03-3815-7804)

電子出版コード 260F2600024002000000

- ・本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・貸与権・公衆送信権 (送信可能化権を含む) は日本内視鏡外科学会が保有します。
- ・本誌を無断で複製する行為は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的 (診療、研究活動を含む) で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。
- ・JCOPY (株) 出版者著作権管理機構 委託出版物) 本誌の無断複製は著作権法上の例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、(株) 出版者著作権管理機構 (電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。

●原著

膿瘍形成性虫垂炎・限局性腹膜炎に対する interval laparoscopic

appendectomy の治療成績久保浩一郎・他 千葉西総合病院外科

●症例報告

術前 ENPD チューブ留置が有用であった腹腔鏡下脾腫瘍核出術の 1 例梶山 潔・他 麻生飯塚病院外科

腹腔鏡下摘出術が可能であった腹壁伏針の 1 例三輪武史・他 富山県立中央病院外科

腹腔鏡下に摘出した経皮経肝穿刺による腹腔内伏針の 1 例熊谷 祐・他 東京慈恵会医科大学附属柏病院外科
繰り返す血便を主訴に発見され腹腔鏡下回盲部切除術によっ

て切除した回腸動静脈奇形の 1 例鎌田哲平・他 東京慈恵会医科大学附属病院外科学講座
虫垂炎術後 70 年経過して発症した盲腸皮膚瘻に対して腹腔鏡下盲腸

部分切除術を施行した 1 例中尾詠一・他 横浜市立みなと赤十字病院外科
直腸癌に対する腹腔鏡手術後に発症した下肢コンパートメント症候

群の 3 例田原真紀子・他 自治医科大学消化器・一般外科
バリウム後腹膜炎に対し腹腔鏡下手術を施行した 1 例岡 直幸・他 足利赤十字病院外科

胃石性小腸閉塞および胃石症に対する腹腔鏡下嵌頓結石除去ならびに胃壁切開の
経験藤井善章・他 蒲郡市民病院外科

他、数編の掲載を予定。但し誌面の都合により変更がございます。ご諒承ください。